

# 下関市レクリエーションボッチャ大会

## レクボッチャの部 競技規則

### 初心者 の 部

#### ▽2019年度よりルールを一部改正▽

初心者クラスについてはコート外からの助言を認めるが、初級クラス、上級クラスについてはコート外からの助言を認めない。ただし、試合中は登録されたチームの全ての選手がコート内に入ることができ、チーム内での相談・助言は認められる。投球はあらかじめ決められた選手3名が行うものとし、原則ゲームの途中で交代することはできない。

#### 1. ゲームの方式

3人ずつの団体戦で、1試合4ラウンド行う。

1試合トータル20分とし、試合時間が残り3分となった場合、新しいラウンドに入らない。ただし20分を超えた場合もそのラウンドの持ち球は全て投げ切ること。  
決勝戦は時間無制限とし、4ラウンドまで行う

各ラウンドの得点を記録し、合計得点で勝敗を決める。

1ラウンドとは、両チームが全てのボールを投げ終わったときとする。

- ① ジャンケンで先攻（赤ボール）・後攻（青ボール）を決める。
- ② 1人が2球の持ち球となる。
- ③ 赤・青それぞれ投げる順番を決める。（1番から3番）
- ④ 1ラウンドは、赤チームが先攻となる。以後、交互に投げる。

#### 2. ゲームの展開

- ① 1ラウンドは赤の1番の人が、白のジャックボールを投げる。

ジャックボールが有効だった場合、続けて同じ人が赤ボールを投げる。

ジャックボールが無効ゾーンに止まったり、コート外に出てしまったときは、相手ボールとなり、青の1番がジャックボールを投げる。

- ② 赤1番→青1番と投げたら、次はジャックボールに近いボールが赤だったら青が投げる。

以下、同様にジャックボールに一番近いボールでないチームが投げる。

- ③ スローイングゾーンの中であれば、どこから投げてかまわない。

どこに投げるかチーム内(選手同士)で相談してもかまわない。但し、スローイングゾーン外の人と相談してはいけない。

初心者の部については、コート外(選手以外)からの助言や介助を許容範囲内で認める。また、コート内へ入ることを許可する。

- ④ 線を超えて(踏んで)投げたり、審判の指示板が出される前にボールを投げた場合はファールとなる。ファール1度目は注意(忠告)をすることとし、ファールとカウントしない。

初心者の部は注意(忠告)はするが、ファールはカウントしない。

- ⑤ わざと時間を遅らせる等の遅延行為はマナー上控えること。
- ⑥ 投げたボールが、コート外に出てしまったり、ぶつけられてカラーボールがコート外に出てしまった場合にはアウトとなり出たボールは直ちにコートの外に出される。  
ジャックボールが無効ゾーンやコート外に出された場合はクロスに置く。
- ⑦ 両チームが全てのボールを投げ終わったら、ラウンド終了となり得点をつける。得点は、ジャックボールの一番近くに赤（青）ボールがある場合は、ジャックボールとジャックボールから一番近くにある青（赤）までの距離を半径にして、ジャックボールを中心に円を描いて、その中に何個赤（青）ボールがあるかを判定する。  
赤ボールが3個あれば、3対0で赤の勝ち。ジャックボールから赤と青が1個ずつ等距離にあれば、1対1の引き分け。赤2個と青1個が等距離にあれば、2対1で赤の勝ちとなる。
- ⑧ 審判がジャックボールを取り上げた時点でラウンドが終了する。  
選手は異議がある場合、得点を発表してから審判がジャックボールを取り上げるまでの間に、手をあげ審判に申し出る。  
選手は、ゲーム終了までいかなる場合であっても審判の了解を得てからでないとスローイングゾーンからではいけない。  
したがって、ゲーム中、進行等に異議がある場合は手をあげ審判に申し出ることを原則とする。
- ⑨ 1ラウンドが終わったら、2ラウンドは青が先攻となり、青の1番がジャックボールを投げる。（3ラウンドは赤が先攻で赤の2番、4ラウンドは青が先攻で青の2番がジャックボールを投げる。）  
ジャックボールを投げないチームは必ず1番から投げる。  
以下、同じようにゲームをする。
- ⑩ 4ラウンド行って、合計得点の多いチームの勝ちとなる。  
1～3ラウンドが終了し20分を超えた場合には、新しいラウンドに入らず、終了したラウンドまでの合計点とする。  
ゲームが終了、又は20分を越え、同点の場合は、タイブレークを行う。タイブレークの場合には、ジャックボールをコートの中央のクロスに置き、各チームのキャプテンがジャンケンをして、先攻、後攻を決定する（この際、ボールの色は変更しない）。投球は一人一投（チームで3投）とし、ジャックボールに一番近いチームの勝ちとし、タイブレークの得点は加算する。

※補足

線を越えて（踏んで）投げそうな場合は審判が声をかけ注意をうながし、できるかぎりファールにならないようにする。

明らかな遅延行為が行われた場合、審判より注意をする。

初心者場合はサポートとしてボックス内への立ち入りを認める。（選手1人に対して原則1人）